

建設産業情報（最近の動向）

在外公館名 在オマーン大

記入日 平成25年5月2日

1. 現地の建設工事に係る経済情報

資料名：該当なし。

URL：

2. 建設業制度、入札契約制度の改正動向（改正等がなければ記入不要）

該当なし。

3. 報道情報

	タイトル、概要	日付/掲載紙	添付
1	<p>「都市発展に関する国家戦略」：13日、「Vision 2020」の包括的及び持続的な成長目標の達成のため、スルターン・アル・ハブシー計画最高評議会事務総長及びアスピランツ・コンサルタンシー（Aspirants Consultancy）との間で、都市開発国家戦略の起草に関する協定が締結された。</p> <p>同国家戦略は、オマーンの各行政区及び地域の長期的な都市開発に関する大綱の策定を行うと同時に、国・行政区及び都市単位での土地利用の統合的な配置設計を行うものである。</p> <p>同プロジェクトは、経済開発、都市成長、エンパワーメント、天然資源、文化遺産、人口、人的資源、社会福祉、交通、インフラ、GIS（地理情報システム）及び法的側面を含む関連分野の専門家によって準備される。</p> <p>同プロジェクトは、11の政府機関の次官からなる委員会及びコンサルタント業務を提供する技術委員会によって監督される。</p>	2013/4/14 ・ Observer	ありなし

2	<p>「高速道路の再入札」:</p> <p>(1) 建設業務の入札</p> <p>運輸・通信省が監督するバーティナ高速道路の第2パッケージの入札委員会による再入札が近々行われる見込みである。同プロジェクトの建設業務は全部で6つのパッケージに分割されており、ほとんどのパッケージの入札が既に公告済である。同高速道路は、マスカット高速道路をオマーン・UAE間国境近くのカトマツト・マラハまで延長する巨大プロジェクトである。</p> <p>1億2320万リアル第2パッケージは、2012年8月にマレーシアの建設会社WCT Engineering 及び Oman Roads Engineering Company により落札されていたものの、先週中止となっていた。関係者筋によると、国内パートナーであるオマーン企業の大規模プロジェクトに対する経験不足が主要な原因である。WCT社は、同社はオマーン政府から実施済みのコンサル・サービス及びF/Sについて補償を受ける予定である旨述べた。</p> <p>(2) 設計業務のコンサル受注企業</p> <p>設計業務は全部で3つのパッケージに分割されている。米国系企業のコンサル会社 Parsons が同省に対して265kmの高速道路の180km延長に関する設計・監督に関するコンサル業務を行っており、45km延長の再入札に関する報告書を提出した。85kmの第3パッケージはトルコのコンサル企業 Botek が受注している。</p>	2013/4/15 ・ Times of Oman	ありなし
3	<p>「争議解決を支援するための労働法の改正」: 人的資源省は、労使間の争議交渉を迅速化するため、労働法の複数の条項を改正した。同改正法は、争議交渉の日数について30日以内と定めている。交渉が妥結しない場合、当事者の要請に基づいて人的資源省は7就労日以内に行動する。被雇用者は第一に雇用者に対して陳情を行うこととされ、交渉が妥結に至らなかった場合、各当事者は同省の労働関係部署に申し立てを行う権利を有する。委託後15日以内に当事者が合意に至らなかった場合には、委員会は友好的な解決のために両当事者と同時に面会する。同委員会の仲裁が委託後30日以内に実現しなかった場合、事案は裁判所に付託される。</p>	2013/4/15 ・ Muscat Daily	ありなし

4	<p>「オマーンは主要な物流玄関口となりうる—運輸通信大臣」:</p> <p>(1) 15日から2日間の日程でマスカットにおいて「GCCサプライチェーン・ロジスティクス会議」が「オマーンのGCCへの玄関口及びインド洋周縁のハブとしての戦略的役割」のテーマの下開催されている。同会議は運輸通信省の主催、オマーン物流・サプライチェーン協会（組織中）、チャータード・インスティテュート・オブ・ロジスティクス&トランスポート（Chartered Institute of Logistics & Transport; CILT）、オランダ大使館等の共催によるものである。</p> <p>(2) 同会議の場で、フタイシ運輸通信大臣は次のとおり述べた。</p> <p>ア 我々の目標は、オマーンをGCC諸国とその他の世界各国を緊密に連結する現代物流システムの一部として、地域における玄関口とすることである。</p> <p>イ 現在、湾岸地域には、UAE及びイエメンを結ぶ現代的な高速道路及び道路網があり、近々サウジアラビアも連結される予定である。マスカットのスルタン・カブス港は近々観光及びクルーズ船専用港となる予定であり、オマーンはサララ、ドゥクム及びソハールという最新の工業・貨物港を有している。</p> <p>ウ オマーン鉄道プロジェクトは、速やかに進行中であり、入札には32社が関心表明を行っている。6月または7月に落札者を決定できるよう望んでいる。これに加えて、マスカット国際空港の拡張プロジェクトも順調に進んでおり、来年末までの完成を望んでいる。サララ空港は改修中であり、新たな地域空港がソハール、同クム及びラス・アル・ハッドに建設中である。サララ、ドゥクム及びソハールは海洋・航空物流基地として最適な場所である。</p> <p>エ 我々は運輸・物流関係部門に、より多くの外国投資を惹きつけ、外国専門企業とオマーン企業との合弁会社の設立を促進する必要がある。</p> <p>オ 以上を考慮に入れ、自分（フタイシ大臣）は、省内に物流タスクフォースの設置を決定した。同タスクフォースは、政府と民間物流部門との間を連結するものである。同時に、同タスクフォースは、取扱者がオマーンを物流の玄関口として利用しない原因である諸問題の解決策の特定・提供、人材育成の特定、雇用機会の創出を行うと同時に、</p>	<p>2013/4/16</p> <ul style="list-style-type: none"> Observer Times of Oman 	<p>ありなし</p>
---	---	--	-------------

	<p>これらに基づき物流をオマーン経済における躍動的な部門に成長させる。同タスクフォースを支援するための一流のアドバイザーを起用する予定である。</p> <p>(3) 同会議における主要スピーチを行ったうちの1人であるメラニー・シュリュツ・ヴァン・ハーゲン・オランダ交通環境大臣は、オマーンはロッテルダム港の主要なパートナーである旨述べた。</p>		
--	--	--	--

4. その他我が国建設業界にとって参考となりうる最近の動向（報道情報以外）

--